

# 第1学年1組 図画工作科学学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水) 9:20~10:05 【場所】1年1組教室 【指導者】中野 秀敏

## 本授業の参観の視点

前時で主材料であるダンボールと十分にふれあった児童は、表現への思いを膨らませています。思いを実現させようとダンボールを加工したり、新しい材料を組み合わせたりしながら思い思いの表現をする児童の姿をご覧ください。

1 題材名 わくわく どきどき ひみつきち (立体に表す)

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、材料を加工したり、様々な材料を組み合わせたりしながら思い思いの秘密基地を立体に表す題材である。秘密基地という言葉は児童にとってわくわく感を感じさせる言葉であり、活動意欲を引き出す。低学年の児童は手や体全体を働かせながらダイナミックに活動することを好む。手や体全体を働かせた造形活動は、児童の様々な試行錯誤につながる。また、主に振り返りの場面においてアートマップを活用し、児童の様々な思いを引き出すことで、多様な表現が生み出される題材になると考える(図1)。

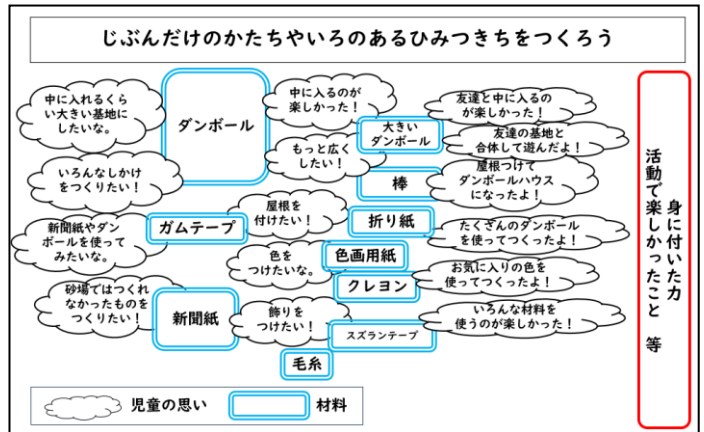


図1 想定されるアートマップ

秘密基地の主材料はダンボールである。ダンボールはガムテープやセロテープを使った接合が容易であり、形を変えたり、穴を開けたりすることもできる。児童は思いに合った形にダンボールをつくりかえ、様々な補助材を組み合わせながら、自分だけの秘密基地をつくっていきだろ。今までに経験したことのないダイナミックな造形活動となる本題材は、手や体全体を働かせながら思い思いに表現する児童の姿を引き出すと考える。

(2) 児童について

本学級の児童(34名)の多くは、造形活動について親しみを感じており、イメージに向かって意欲的に活動することができる。しかし、造形活動の経験には大きく差があり、図画工作科の時間は教師に決められたものをつくる時間という感覚をもっている児童も少なくない。

6月に「ようこそ!すなすなランドへ!」の学習では、城や山、家、基地、テーマパークなどの様々な立体物をつくりたいという思いから、プラスチックカップや自然物などの材料に働きかけ、つくることを楽しむ姿が見られた。授業後の振り返りでは、「つくったものの中に入ってみたい」という意見が出たため、児童との話し合いを通して、教室に秘密基地をつくるという本題材を決定した。

事前調査の結果、「ダンボールを使って何か作ったことはありますか」という質問項目に対して、あると答えた児童は14名であった。また、「自分よりも大きなダンボールを使って何か作ったことはありますか」という項目に対して、あると答えた児童は4名であった。初めてダンボールを加工する児童も多いため、主材料となるダンボールに十分にふれる時間が必要である。

(3) 指導について

本題材では、題材全体を通して児童の思いを引き出しながら、振り返りの場面でアートマップを作成していく。十分に材料とふれあい、試行錯誤する活動を繰り返しながら、楽しかった思いや使った材料などをアートマップに可視化することで今後の造形活動への礎としていきたい。

普段使用している教室で秘密基地づくりを行うことは児童に非日常感を感じさせ、造形活動に没頭するきっかけとなるだろう。教室のどこで活動してもよいこと、自由に動いてよいことを伝え、児童同士の交流につなげるとともに自由な造形活動の雰囲気づくりを行っていききたい。また、児童が広い空間を

求め、廊下やテラスなどで活動し始めることも考えられる。その際には、その発想を称賛するとともに安全性を考慮しながら自由に活動場所を選ばせたい。初めてダンボールを加工する児童が多く、抵抗感を感じることが予想されるため、材料を試したくなる環境を設定することで手や体全体を働かせて表現する児童の姿を引き出すようにする。

第一次では、前題材「ようこそ！すなすなランドへ！」の学習場面を想起することで「つくったものの中に入ってみたい！」という思いを引き出し、本題材へつなげていく。児童の意欲を持続させるために導入を短く行い、活動の時間を十分に確保したい。児童は主材料であるダンボールを加工したり、組み合わせたりすることを通して主材料の特性を発見していく。材料とふれあう中で児童は今までに培ってきた力を発揮するだろう。そのような力を発揮している児童を称賛し、全体に広げることで児童の思い思いの表現へとつなげていきたい。第一次の振り返りでは、児童の「～をつくりたい」「～の材料を使いたい」などの思いを引き出し、次の活動につなげていく。その思いをアートマップに残し、可視化していくことで児童自身が学びをつくる経験を積ませたい。

第二次では、児童が自分の表現したいことに合わせて、材料や表し方を選択し、自ら活動を展開できるようにしたい。第一次の振り返りで出た材料を児童自身が準備したり、教師が準備したりすることで造形活動の広がりをおねらう。それぞれの児童が準備した材料は、思い思いの秘密基地づくりにつながる。児童が用意した材料を共有して使うなどの協働的に活動する姿もより見られるようになるだろう。他者と協働しながら自分なりに表現を生み出そうとする姿を称賛することで造形活動の更なる広がりをねらっていく。

また、題材を通して、児童一人一人の活動を見取り、共感や承認の言葉かけをしていくことで児童が作りだしている意味や価値を自覚できるようにつなげたい。

#### (4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「題材・領域」	図画工作科 「わくわく どきどき ひみつきち」(立体に表す)	・自分が表したいことに合わせて材料を選んだり、形や色を工夫したりして表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】	・自分が表したいことに合わせて材料を選んだり、形や色を工夫したりして表現している。
ステージB 「自教科」	図画工作科 「うまれた うまれた へんてこいきもの」(立体に表す) 「ようこそ！すなすなランドへ！」 (立体に表す)	・これまでに身に付けた知識・技能や発想・構想の能力を活用することができる。【知識及び技能】	・自分が表したいことに合わせて、これまでの学習で身に付いた力を発揮している。
ステージC 「他教科」	生活科 「がっこうだいすき」 (新編 あたらしいせいけん 東京書籍)	・自分の教室と比べながら、学校の施設の特徴を探している。【思考力・判断力・表現力等】	・自分と友達秘密基地を比べながら、形や色のよさを探している。
ステージD 「実社会・実生活」	身の回りの部屋や家、店	・生活の中で見た形や色を造形活動に生かそうとしている。【学びに向かう力、人間性等】	・身の回りの部屋や家、店などの様子を想起しながらイメージを広げ、表現を工夫している。

ステージA、Bについては題材を通して表れるものである。特に新しい補助材が増え、多様な表現が生まれ始める2時目以降に顕著に表れると予想される。自分が表したいことに合わせて材料を選び、組み合わせる姿や自分の思いを実現するために形や色を工夫する姿を期待する。ステージCについては、4時目に表れると予想される。鑑賞活動を楽しむ中で秘密基地の形や色を比べ、よさに気付く姿を期待する。ステージDについては2・3時目に表れると予想される。児童が様々な造形表現を試行する中で、生活の中で見た形や色が造形活動に生かされるだろう。

また、本題材は机上で行う造形活動ではなく、教室全体を使ったダイナミックな活動であるため他者の発想との回遊が多く表れることも予想される。友達の活動をヒントに新しい活動を思い付いたり、友達の思いに共感し、一緒に活動したりするなどの姿が多く見られるだろう。同じ思いをもっている児童同士をつないだり、活動を紹介したりすることで更に見方や感じ方が深まるようにしたい。

### 3 題材の目標と評価規準

#### (1) 題材の目標

題材からイメージを広げ、材料を通して形や色に働きかけてつくりだす喜びを感じたり、これまでに身に付けた力を発揮したりしながら自分なりの表現を楽しむことができるようにする。

#### (2) 評価規準

**ア** 秘密基地の形や色を思い浮かべて、自分が表したいことに合わせて材料を基に形や色に働きかけたり、今までに身に付けた力を働かせ工夫して活動したりしている。 【知識・技能】

**イ** 秘密基地のイメージをもち形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながらどのように活動するかについて考えたり、できたものの造形的な面白さや楽しさなどについて感じたりして自分の見方や感じ方を広げている。 【思考・判断・表現】

**ウ** つくりだす喜びを味わうとともに、手や体全体を使って、秘密基地の形や色を思い浮かべて活動に楽しく取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

### 4 題材の指導計画（全4時間 本時2／4時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一	1	○表したいことに合った表現方法や材料、形や色を考え、工夫して表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が表したいことに合った表現を試すことができるように、十分な材料を準備する。</li> <li>・活動終盤で補助材を提示し、次時の活動の見通しと意欲につなげる。</li> <li>・アートマップを作成することを通して、児童が自分の活動を見通したり、振り返ったりすることができるようにする。</li> </ul>	◆表したいことに合う材料や形、色を選びながらどのように表すかについて考えている。 【思・判・表】	B 他者
二	2 本時	○これまでに身に付けた力を働かせ、自分のイメージに合った表現に近付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートマップを使って、前時を振り返り、新たな材料も使いながら様々なことを試す時間であることを確認する。</li> <li>・新しいことを試している児童の表現を称賛し、全体に広げることで多様な造形活動につなげる。</li> <li>・これまでに身に付けてきた力を働かせている児童の姿を承認することで児童一人一人の造形活動を価値付ける。</li> </ul>	◆表したいことに合わせて、材料や用具を工夫して使い、形や色を工夫して表している。 【知・技】	A B D 他者
	3	○新たな表現を試したり、友達の表現の工夫を取り入れたりしながら、自分のイメージに合った表現に近付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートマップや材料を基に新たな表現を試したり、友達の表現の工夫を取り入れたりしている児童を称賛し、全体に広げることで多様な造形活動につなげる。</li> </ul>	◆自分のイメージした表現に近付けるために進んで活動に取り組もうとしている。 【主】	A B D 他者
	4	○友達と交流したり、遊んだりしながら表現したもののよさや面白さを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動からできた形や色を友達と交流したり、よさや面白さを感じあったりして表現とともに鑑賞を楽しむ時間を設ける。</li> <li>・作成したアートマップで題材の振り返りを行い、児童がつくりだしたものの意味や価値の自覚につなげる。</li> </ul>	◆表し方について感じ取ったり考えたりしようとして、見方や感じ方を広げている。 【思・判・表】	B C 他者

### 5 本時の指導（2／4）

#### (1) 指導目標

題材からイメージを広げ、自分の表したいことに合わせて形を考えたり、材料を試したりしながら工夫して表現することができるようにする。

(2) 評価規準

ア 秘密基地の形や色を思い浮かべて、自分が表したいことに合わせて材料を基に形や色に働きかけたり、今までに身に付けた力を働かせたりしながら形や色を工夫して表すことができる。【知識・技能】

(3) 展開（波線部は回遊する児童の姿とそのための手立て）

学習活動と児童の反応（ <u>        </u> ）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の見通しをもつ。（4分）</p> <p>・今日は秘密基地に窓をつくりたいな。</p> <p>・今日持ってきた材料を使ってたくさんを試してみたい。</p>	<p>1-(1) アートマップを基に振り返り、新しい補助材を使いながら表現する時間であることを確認する。</p> <p>1-(2) アートマップをいつでも見ることができるようにしておくことで児童が必要に応じて活動の手がかりにできるようにする。</p>
<p>じぶんだけのかたちやいろのあるひみつきちをつくろう</p>	
<p>2 材料を加工したり、組み合わせたりするなどの工夫をしながら表現する。（33分）</p> <p>・どの材料を使おうかな。</p> <p>・次はどんな形にしようかな。</p> <p>・もっと大きい秘密基地にしたいな。</p> <p>・かっこいい秘密基地になるように色を塗ろう。自分の好きな色を使いたいな。</p> <p>・折り紙を使って色をつけよう。</p> <p>・大きい穴を開けて窓みたいにしたいな。どうやって穴を開けたらいいかな。どんな道具を使うと開けやすいかな。</p> <p>・新聞紙を広げて貼ると部屋みたいになって楽しいな。たくさん貼ってみよう。</p> <p>・へんてこいきものをつくった時はたくさん材料を組み合わせたぞ。あの時みたいになんか材料を使ってみよう。</p> <p>・砂場でお城を作った時にはたくさんカップを使ったぞ。カップを使うとでこぼこの秘密基地になるな。</p> <p>・どうやったらもっといい秘密基地になるかな。</p> <p>・いろいろな材料を使ってもっといい秘密基地にできそうだな。次は違う材料を使ってみよう。</p> <p>・どんなことができそうかな。友達の活動をまねしてみよう。</p> <p>・〇〇さんの表現はまねできそうだな。どんな作り方しているか聞いてみよう。</p> <p>・友達のつくった秘密基地の中に入るのは楽しいな。もっとたくさん友達の秘密基地の中に入ってみよう。</p>	<p>2-(1) <u>教室のどこで活動してもよいこと、自由に動いてよいことを伝え、児童同士の交流につなげる。</u> <b>（他者）</b></p> <p>2-(2) 教室の外で活動を始めた時には、その発想を称賛し、安全に気を付けて活動するように言葉かけする。</p> <p>2-(3) <u>様々な材料や活動場所を想定し、準備しておくことで児童が表したいことに合った表現を試すことができるようにする。</u>（A B）</p> <p>2-(4) <u>生活の中で見た形や色を表現に生かそうとしている児童が見られた場合は、称賛することで多様な造形活動につなげる。</u>（D）</p> <p>◆ 表したいことに合わせて、様々な材料を試したり、形や色を工夫したりしているか（活動の様子） <b>【知・技】</b> B 材料の形を変えたり、形や色を工夫したりして表現している。 C→ 児童の思いを対話しながら引き出し、友達とつないだり、材料の提示をしたりすることで活動のヒントを与える。</p>
<p>3 振り返りをする。（8分）</p> <p>・次の時間はあの材料を使いたいから家から持ってきたいな。</p> <p>・〇〇さんのようにすると、自分の秘密基地はもっとよくなりそうだな。</p> <p>・〇〇さんが言うように新聞紙だけでなくチラシを使っても色が増えていい感じになりそうだな。</p> <p>・今日は新しい材料をたくさん使ったんだな。こうやって新しい材料をたくさん使うとおもしろい秘密基地ができるんだな。</p>	<p>2-(5) <u>児童一人一人の活動を見取り、共感や承認の言葉かけを多く行うことで、児童がつくりだしている意味や価値の自覚につなげる。</u>（A B）</p> <p>2-(6) <u>これまでに身に付けた力を発揮したり、実生活での知識を基に新しい表現を試したりしている児童の姿を称賛し、児童一人一人の造形活動を価値付けることで、児童が発想や構想の広がりを感じたりすることができるようにする。</u>（A B）</p> <p>3-(1) 次時の活動に生かすため、次時でつくりたいものや使いたい材料などの思いを引き出す。その思いをアートマップに書き加え、思いの可視化と共有を図ることで次時への活動意欲につなげる。</p> <p>3-(2) 児童の思いを表現するためにはどうすればよいかを全体に問うことで、児童の思いと表現方法や材料につなげ、次時の活動に生かす。</p> <p>3-(3) 本時の活動でアートマップに新しく加わった部分を問い、本時で行った造形活動のよさに着目できるようにする。</p>

